

MAKE THE
WORLD SEE

Milestone Systems

XProtect® Access 2022 R3

システム管理者マニュアル



目次

著作権、商標、および免責条項	3
サポートされるVMS製品とバージョン	4
概要	5
XProtect Access（説明付き）	5
ライセンス	6
XProtect Accessライセンス	6
ライセンスの詳細を検索	6
設定	7
統合されたアクセスコントロールシステムを設定する	7
アクセスコントロールシステム統合ウィザード	7
アクセスコントロールシステム統合の作成	8
アクセスコントロールシステムへの接続	8
関連のあるカメラ	8
サマリー	8
アクセスコントロールプロパティ	9
一般設定タブ(アクセスコントロール)	9
ドアと関連付けられたカメラタブ（アクセスコントロール）	10
アクセスコントロールイベントタブ(アクセスコントロール)	11
アクセスリクエスト通知タブ(アクセスコントロール)	12
カードホルダータブ(アクセスコントロール)	13
設定アクセスリクエスト	14

著作権、商標、および免責条項

Copyright © 2022 Milestone Systems A/S

商標

XProtectはMilestone Systems A/Sの登録商標です。

MicrosoftおよびWindowsは、Microsoft Corporationの登録商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。AndroidはGoogle Inc.の商標です。

本文書に記載されているその他の商標はすべて、該当する各所有者の商標です。

免責条項

このマニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生する危険の責任はすべてその使用者にあるものとします。また、ここに記載されている内容はいずれも、いかなる事項も保証するものではありません。

Milestone Systems A/Sは、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対する類似性は、それが現存しているかどうかにかかわらず、まったく偶然であり、意図的なものではありません。

この製品では、特定の契約条件が適用される可能性があるサードパーティ製ソフトウェアを使用することがあります。その場合、詳細はお使いのMilestoneシステムインストールフォルダーにあるファイル3rd_party_software_terms_and_conditions.txtを参照してください。

サポートされるVMS製品とバージョン

このマニュアルでは、次のXProtectVMS製品によりサポートされる機能が記載されています。

- XProtect Corporate
- XProtect Expert
- XProtect Professional+
- XProtect Express+
- XProtect Essential+

Milestoneは、上記のXProtect VMS製品の現行のバージョンと以前の2つのバージョンを使用して、本書に記載されている機能をテストします。

新しい機能が現在のリリースバージョンでのみサポートされており、以前のリリースバージョンではサポートされていない場合は、機能の説明にこれに関する情報が記載されています。

下記の廃止されたXProtectVMS製品でサポートされているXProtectクライアントとアドオンのドキュメントは、Milestoneダウンロードページ (<https://www.milestonesys.com/downloads/>) に掲載されています。

- XProtect Enterprise
- XProtect Professional
- XProtect Express
- XProtect Essential

概要

XProtect Access（説明付き）



XProtect Accessを使用する場合、XProtectシステムでこの機能の使用を許可する基本ライセンスを購入しておく必要があります。また、制御する各ドア用のアクセスコントロールドアライセンスも必要です。



XProtect Accessに対するベンダー固有のプラグインが存在するベンダーのアクセスコントロールシステムで、XProtect Accessを使用することができます。

アクセスコントロール統合機能には、XProtectとお客様のアクセスコントロールシステムを簡単に統合できる新機能が含まれています。特長：

- XProtect Smart Client内の複数のアクセスコントロールシステムを操作できる共通のユーザーインターフェース。
- アクセスコントロールシステムをより素早く強力に統合
- オペレータ向けに追加された機能（以下を参照）。

XProtect Smart Clientでは、オペレータは以下の機能を使用できます。

- アクセスポイントでのイベントのライブ監視
- オペレータによるアクセスリクエストの受理
- マップの統合
- アクセスコントロールイベントのアラーム定義
- アクセスポイントでのイベントの調査
- ドアの状態の一元化された概要とコントロール
- カードホルダー情報と管理

監査ログは、XProtectSmartClientからのアクセスコントロールシステムで各ユーザーが実行するコマンドを記録します。

統合を開始するには、XProtect Access基本ライセンス以外にも、ベンダー特有の統合プラグインがイベントサーバーにインストールされている必要があります。

ライセンス

XProtect Accessライセンス

XProtect Accessは、以下のアクセスコントロール関連ライセンスを必要とします。

- 無制限台数のアクセスサーバーをカバーするXProtect Accessのベースライセンス1件。
- XProtect Accessで統合および制御する各ドアごとのアクセスコントロールドアライセンス1件。XProtect Access製品をインストールすると、すべてのドアライセンスが自動インストールされます。



インストールしたドアライセンスはデフォルトで無効化されています。使用するドアを有効に設定する必要があります。所有しているドアライセンスの数だけ、ドアを有効に設定できます。

例

10個のドアを追加することを希望していますが、5つしかアクセスコントロールドアライセンスがありません。最初の5つのドアを追加すると、それ以上ドアを選択できなくなります。別のドアを追加する前に、一部のドアを削除する必要があります。

例

アクセスポイントが2か所（入口のカードリーダーと出口のカードリーダー）あるドアが1つあります。ドア1つにつきアクセスコントロールドアライセンスが1つ必要なため、このシナリオでは、アクセスコントロールドアライセンスが1つ必要になります。

ライセンスの詳細を検索

アクセスコントロールドアライセンスの現在のステータスを確認するには、**アクセスコントロールノード**を開きます。

追加のXProtect Access基本ライセンスまたはドアライセンスを購入するには、ベンダー。

設定

統合されたアクセスコントロールシステムを設定する

要件

- 必要なXProtect Accessライセンスを購入済み
 - イベントサーバーにご利用のアクセスコントロールシステム固有の統合プラグインがインストール済み
1. XProtectシステムに、統合されたアクセスコントロールシステムを追加します。[ページ7のアクセスコントロールシステム統合ウィザード](#)を参照してください。ウィザードの指示に従って、基本的な手順を実行してください。
 2. アクセスコントロールシステム統合の追加のプロパティを指定します。特に、アクセスコントロールイベントでは、XProtectによって認識されるイベントカテゴリを使用するアクセスコントロールシステムからイベントをマップする必要がある場合があります。[ページ9のアクセスコントロールプロパティ](#)を参照してください。
 3. XProtect Smart Clientのアクセスコントロール機能を使用するには、アクセス許可がある役割を作成する必要があります。
 4. また、この役割をSmart Clientのプロファイルと関連付ける必要もあります。
 5. システムには、アクセスが拒否された場合に、XProtect Smart Client画面にアクセスリクエスト通知を表示するデフォルトルールが提供されています。アクセスリクエスト通知は追加および編集が可能です。アクセスリクエスト通知（プロパティ）を参照してください（[ページ12のアクセスリクエスト通知タブ\(アクセスコントロール\)](#)を参照）。
 6. アクセスコントロールシステムからのアクションおよびイベントを基に追加のルールを作成できます。
 7. 必要な場合は、**オプション>アクセスコントロール設定**で全体的なアクセスコントロール設定を変更します。

アクセスコントロールシステム統合ウィザード

アクセスコントロールシステム統合ウィザードでは、アクセスコントロールシステムの最初の統合を段階的に設定します。ウィザードを使用して、基本的な設定作業を行うことができます。後日に、さらに詳細な設定を行うことができます。

アクセスコントロール統合ウィザードを開始する前に、イベントサーバーに統合プラグインがインストールされていることを確認してください。

フィールドへの入力値とそのデフォルト値は、統合プラグインから継承されます。このため、ウィザードの外観は、統合されるアクセスコントロールシステムによって異なる場合があります。

ウィザードを開始するには、ノードツリーで**アクセスコントロール**を選択し、右クリックして、**新規作成**をクリックします。

アクセスコントロールシステム統合の作成

追加したいアクセスコントロールシステムの名前を入力し、その接続の詳細を指定します。どのパラメータを指定する必要があるかはシステムのタイプに応じて異なりますが、通常はアクセスコントロールシステムサーバーのネットワークアドレスと、同システムの管理者ユーザー名とパスワードが対象となります。

設定を取得するためにアクセスコントロールシステムにログインする際、ビデオ管理システムは、指定したユーザー名とパスワードを使用します。

また、統合プラグインでは、ウィザードでリストされないセカンダリパラメータを定義することもあります。これらは統合を設定した後に **一括設定** で変更することができます。パラメータのデフォルト値は、プラグインまたはXProtectシステムによって入力されます。

アクセスコントロールシステムへの接続

プラグインが正常に統合されると、取得されたアクセスコントロールシステムの設定の概要が表示されます。ウィザードの次のステップに進む前に、このリストにすべてのアイテムが統合されていることを確認します。

関連のあるカメラ

アクセスコントロールシステムのアクセスポイントをXProtectシステムのカメラとマッピングし、イベントに対してドアからの関連ビデオを表示します。

また、複数のカメラを単一のアクセスポイントにマッピングすることもできます。これによりXProtect Smart Clientユーザーは、たとえばイベント調査時などに、すべてのカメラからのビデオを表示できるようになります。

さらに、XProtect Smart Clientユーザーは、**アクセスモニター**の表示アイテムを設定するときに、いずれかのカメラを追加することもできます。

ライセンスを付与されているドアは、デフォルトで有効になっています。ドアを無効にし、アクセスコントロールドアライセンスを解除するにはチェックボックスをオフにしてください。

サマリー

デフォルト設定を統合プラグインから継承したアクセスコントロールシステム統合が、XProtectで正常に作成されました。新しいアクセスコントロールシステムを表示および使用するには、クライアントユーザーはXProtect Smart Clientにログインする必要があります。

必要に応じて、この構成を調整できます。

アクセスコントロールプロパティ

一般設定タブ(アクセスコントロール)

名前	説明
有効	<p>システムはデフォルトで有効に設定されています。つまり、システムはXProtect Smart Clientで十分な権限を持つユーザーに対して表示され、アクセスコントロールイベントはXProtectシステムによって受信されます。</p> <p>メンテナンス中などにシステムを無効にして、不要なアラームが作成されるのを避けることができます。</p>
名前	<p>アクセスコントロール統合の名前が、そのままManagement Applicationやクライアントで表示されます。既存の名前を、新しい名前の上書きすることができます。</p>
説明	<p>アクセスコントロール統合の説明を提供します。これはオプションです。</p>
統合プラグイン	<p>最初の統合で選択したアクセスコントロールシステムのタイプを示します。</p>
最後の設定更新	<p>アクセスコントロールシステムから最後にインポートした日付および時刻を示します。</p>
設定の更新	<p>ドアの追加や削除など、XProtectのアクセスコントロールシステムで行った変更を反映させる必要がある場合には、このボタンをクリックします。</p> <p>アクセスコントロールシステムからの設定変更の概要が表示されます。新しい設定を適用する前に、リストをレビューして、アクセスコントロールシステムに正しく反映されていることを確認します。</p>
オペレータのログインが必要	<p>アクセスコントロールシステムが異なるユーザー権限をサポートしている場合、クライアントのユーザーに対して追加ログインを有効に設定します。このオプションを可能にする際には、XProtect Mobileクライアントはアクセスコントロールシステムは使用できません。</p> <p>統合プラグインが異なるユーザー権限をサポートしている場合のみ、このオプションが表示されません。</p>

以下のフィールドの名前や内容は、統合プラグインからインポートされます。以下は通常のレイアウト例です：

名前	説明
アドレス	統合されたアクセスコントロールシステムを提供するサーバーのアドレスを入力します。
ポート	アクセスコントロールシステムが接続するサーバーのポート番号を指定します。
ユーザー名	アクセスコントロールシステムで定義されている、XProtectの一体型システムの管理者となるユーザーの名前を入力します。
パスワード	ユーザーのパスワードを指定します。

ドアと関連付けられたカメラタブ（アクセスコントロール）

このタブでは、ドアのアクセスポイントとカメラ、マイク、スピーカーの間のマッピングを提供します。カメラは統合ウィザードの一部として関連付けますが、いつでも設定を変更することができます。カメラに関連付けられたマイクやスピーカーを通じて、マイクやスピーカーへのマッピングが内在しています。

名前	説明
ドア	<p>アクセスコントロールシステムで定義されている、使用可能なドアのアクセスポイントをドア別にグループ化してリストします。</p> <p>関連するドアへの移動を簡単にするには、アクセスコントロールシステムで上部にあるドロップダウンリストボックスを使用し、ドアをフィルタリングできます。</p> <p>有効： ライセンスを付与されているドアは、デフォルトで有効になっています。ドアを無効にして、ライセンスを解放することができます。</p> <p>ライセンス： ドアのライセンスがあるか、ドアが有効期限切れであるかを示します。ドアが無効であれば、このフィールドは空白です。</p> <p>削除： 削除をクリックすると、アクセスポイントからカメラを削除します。すべてのカメラを削除すると、関連するカメラのチェックボックスが自動的にクリアされます。</p>
カメラ	<p>XProtectシステムで設定されているカメラをリストします。</p> <p>リストからカメラを選択し、関連するアクセスポイントでドラッグおよびドロップして、カメラとアクセスポイントを関連付けます。</p>

アクセスコントロールイベントタブ(アクセスコントロール)

イベントをグループ化できるイベントカテゴリです。イベントカテゴリの構成は、XProtectシステムのアクセスコントロールの動作に影響を与えます。たとえば、複数のタイプのイベントでの単一のアラームの起動を定義することができます。

名前	説明
アクセスコントロールイベント	<p>アクセスコントロールシステムからインポートしたアクセスコントロールイベントをリストします。統合プラグインが、デフォルトでのイベントの有効化や無効化を制御します。イベントは、統合後にいつでも有効または無効にできます。</p> <p>イベントが有効化されると、XProtectのイベントデータベースに保存され、XProtect Smart Clientでのフィルタリングなどに使用可能となります。</p>
ソースタイプ	<p>アクセスコントロールイベントを起動できるアクセスコントロールユニットを表示します。</p>
イベントカテゴリ	<p>アクセスコントロールイベントに、「なし」、「1つ」、「複数」のイベントカテゴリのいずれかを割り当てます。システムは、統合中に関連するイベントカテゴリを自動的にイベントにマッピングします。これによって、XProtectシステムのデフォルト設定が有効になります。マッピングは、いつでも変更できます。</p> <p>統合イベントカテゴリは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクセスが拒否されました • アクセスを許可済み • アクセスリクエスト • アラーム • エラー • 警告 <p>また、統合プラグインによって定義されるイベントやイベントカテゴリも表示されますが、独自のイベントカテゴリを定義することも可能です。ユーザー定義カテゴリを参照してください。</p> <div style="background-color: #f9e79f; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <p> XProtect Corporateでイベントカテゴリを変更する場合は、既存のアクセスコントロールのルールが正しく機能していることを確認してください。</p> </div>
ユー	<p>ユーザー定義のイベントカテゴリを作成、変更、削除することができます。</p>

名前	説明
ユーザー定義カテゴリ	<p>統合カテゴリが要件に適合しない場合は、イベントカテゴリを作成することができます。たとえば、アクセスコントロールのアクションを起動するイベントの定義と組み合わせることができます。</p> <p>カテゴリは、XProtectシステムに追加されたすべての統合システムにグローバルに適用されます。これにより、たとえばアラーム定義など、システムをまたいだ操作の設定が可能になります。</p> <p>ユーザー定義のイベントカテゴリを削除すると、統合によって警告が使用されている場合には警告を受信します。それでも削除すると、たとえばアクセスコントロールのアクションなど、このカテゴリで行ったすべての設定が動作しなくなります。</p>

アクセスリクエスト通知タブ(アクセスコントロール)

指定したイベントが発生したときにXProtectSmartClientの画面に表示されるアクセスリクエスト通知を指定できます。

名前	説明
名前	アクセスリクエスト通知の名前を入力します。
アクセスリクエスト通知を追加	<p>クリックして、アクセスリクエスト通知を追加、定義します。</p> <p>通知を削除するには、右側でXをクリックします。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;">  <p>XProtect Smart ClientのユーザーがMilestone Federated Architecture階層の親サイトへログインすると、子サイトからのアクセスリクエスト通知がXProtect Smart Clientにも表示されます。</p> </div>
アクセスリクエスト通知の詳細	所定のイベントが発生した場合、どのカメラ、マイク、スピーカーをアクセスリクエスト通知に表示するかを指定します。また、通知ポップアップが表示されるときにユーザーに警告する音声を指定します。
コマンドの追加	<p>XProtect Smart Clientのアクセスリクエスト通知ダイアログで、どのコマンドをボタンとして使用可能にするかを選択します。</p> <p>関連するアクセスリクエストコマンド：</p>

名前	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ソースユニットで使用できるアクセスリクエスト操作に関連するすべてのコマンドを有効にします。たとえば、[ドアを開ける]などです。 <p>すべての関連コマンド：</p> <ul style="list-style-type: none"> ソースユニットで、すべてのコマンドを有効にします。 <p>アクセスコントロールコマンド：</p> <ul style="list-style-type: none"> 選択したアクセスコントロールコマンドを有効にします。 <p>システムコマンド：</p> <ul style="list-style-type: none"> XProtectシステムで事前に定義されているコマンドを有効にします。 <p>コマンドを削除するには、右側でXをクリックします。</p>

カードホルダータブ(アクセスコントロール)

カードホルダータブを使用して、アクセスコントロールシステムにおけるカードホルダーの情報をレビューします。

名前	説明
カードホルダーの検索	カードホルダーの名前の文字を入力すると、存在する場合はリストに表示されます。
名前	アクセスコントロールシステムから取得したカードホルダーの名前をリストします。
タイプ	<p>以下のようにカードホルダーのタイプをリストします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 従業員 警備員 来客

使用しているアクセスコントロールシステムが、XProtectシステムでの写真の追加/削除をサポートしている場合、カードホルダーに写真を追加することができます。これは、アクセスコントロールシステムにカードホルダーの写真が含まれていない場合に便利です。

名前	説明
画像の選択	<p>カードホルダーの画像ファイルへのパスを指定します。アクセスコントロールシステムが画像を管理している場合、このボタンは表示されません。</p> <p>使用できるファイル形式は、.bmp、.png、.jpgです。</p> <p>最大に表示されるように、画像はサイズ変更されます。</p> <p>Milestoneでは、正方形の画像を使用することを推奨しています。</p>
画像の削除	<p>クリックすると、画像を削除します。アクセスコントロールシステムに画像があった場合、削除後はこの画像が表示されます。</p>

設定アクセスリクエスト

いくつかのタイプのアクセスコントロールイベントがあります。例えば**アクセス拒否**、そして**アクセス許可**といったものです。アクセスリクエスト通知を有効化するには、イベントの種類をイベントカテゴリー**アクセスリクエスト**と関連付けておく必要があります。デフォルト設定では、**アクセス拒否**は、**アクセスリクエスト**と関連付けられています：アクセスリクエスト通知は、誰かのアクセスが拒否された場合にのみ送られます。この設定を変更するには、本トピックにおける手順に従ってください。

要件： 現行のクライアントユーザーの役割において、通知を有効にします。そのためには、役割において、**アクセスコントロールイベント**タブをクリックし、**アクセスコントロールイベント**を選択した後、**通知を受け取る**チェックボックスを選択してください。

手順：

1. **サイトナビゲーション**ペインで、**アクセスコントロール**を選択します。
2. **アクセスコントロールイベント**タブの**アクセスコントロールイベント**カラムで、編集したいイベントタイプを見つけます。
3. イベントタイプにおけるアクセスリクエストを無効にするには、**イベントカテゴリー**カラムで をクリックし、**アクセスリクエスト**チェックボックスを外します。
4. イベントタイプにおけるアクセスリクエストを有効にするには、**イベントカテゴリー**カラムで をクリックし、**アクセスリクエスト**チェックボックスを選択します。
5. 変更を保存します。



helpfeedback@milestone.dk

Milestoneについて

Milestone Systemsはオープンプラットフォームの監視カメラ管理ソフトウェア (Video Management Software: VMS) の世界有数のプロバイダーです。お客様の安全の確保、資産の保護を通してビジネス効率の向上に役立つテクノロジーを提供します。は、世界の15万以上のサイトで実証された高い信頼性と拡張性を持つMilestone Systemsのソリューションにより、ネットワークビデオ技術の開発と利用におけるコラボレーションとイノベーションを促進するオープンプラットフォームコミュニティを形成します。Milestone Systemsは、1998年創業、Canon Group傘下の独立企業です。詳しくは、<https://www.milestonesys.com/>をご覧ください。

